

# 令和7年度第5回多賀城市地域公共交通協議会

## 議事録

### 1 日時

令和7年10月21日（火）午後1時30分から

### 2 場所

多賀城市役所 西庁舎6階 大会議室

### 3 出席者

所属・役職	氏名	役員
多賀城市副市長	鈴木 学	副会長
多賀城市都市産業部 部長	吉田 学	監事
株式会社仙塩交通 代表取締役社長	鷗原 啓文	
東日本旅客鉄道株式会社 仙台統括センター 多賀城駅長	桂田 雄巨	
宮城県タクシー協会 塩釜支部 (有)振興タクシー 多賀城営業所長	小野寺 和博	
国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所 交通対策課 専門調査官	日下 貴博	
宮城県仙台土木事務所 道路部 技術副参事兼総括次長	佐藤 雅之	
多賀城市都市産業部都市整備課 課長	佐藤 光彦	
東北運輸局宮城運輸支局輸送・監査部門 首席運輸企画専門官	関澤 京子	
宮城県塩釜警察署交通課 課長	馬場 岩雄	
宮城県企画部地域交通政策課 主任主査	西倉 健二	
仙台市都市整備局総合交通政策部 公共交通推進課 課長	菊池 信幸	
塩竈市総務部政策課 課長	引地 洋介	
七ヶ浜町まちづくり振興課 課長	鈴木 昭史	
多賀城市社会福祉協議会 会長	柴田 十一夫	監事
多賀城市町内会長連絡協議会 桜木東区町内会 会長	木村 英廣	
多賀城市町内会長連絡協議会 高橋北区町内会 会長	鈴木 太賀夫	
多賀城市民	櫻井 やえ子	
多賀城市民	森本 照雄	

※協議事項1のみ、計画策定支援受注者である株式会社オリエンタルコンサルタンツ出席

4 次第

(1) 開会

(2) 委嘱状の交付

(3) 会長の挨拶

(4) 委員及び事務局員紹介

(5) 議題

協議事項 1 多賀城市地域公共交通計画策定について（各種調査結果等）

協議事項 2 多賀城東部線・多賀城西部線における取組の概要について

(6) その他

(7) 閉会

## (1) 開会

### ○事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

会長ですが、学校の都合がありまして、本日出席ができなくなつたと連絡がありました。

本日は副会長の鈴木副市長が議長を務めるという形で始めさせていただきたいと思います。

ただ今から令和7年度 第5回多賀城市地域公共交通協議会を開催いたします。

本日の進行を務めさせていただきます、私、都市産業部都市計画課の福士と申します。

どうぞよろしくお願ひいたします。

まず資料の確認をさせていただきます。

資料1、2、それから各種調査結果について参考資料1-1から1-4を机上に配付させていただいております。

お手元にない方がいらっしゃいましたら、お知らせいただければと思います。

皆様、資料はお揃いでしょうか。

本日の会議は、議事録作成のために録音させていただいておりますので、ご了承願います。

また、議事録につきましては、ホームページで公表を行わせていただきますのでご了承願います。

## (2) 委嘱状の交付

### ○事務局

続きまして、10月より新たに多賀城駅長として着任されました東日本旅客鉄道株式会社桂田様への委嘱状交付に移ります。

桂田様は前の方へ移動願います。

[委嘱状交付]

## (3) 会長の挨拶

### ○副会長

改めまして皆様、こんにちは。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

早いものでこの地域公共交通協議会の会議も第5回を迎えました。

書面での開催もございましたが、今年の目標であります、交通計画の策定についての骨子が見えてまいりました。

ここで皆様に、改めてその骨子案をご説明させていただくことによって、より良きものを作り上げていきたいと思ってございますので、皆様ご忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。

それから、多賀城市的東部線・西部線につきましても、今後の取り組みの状況について、事務局より色々な方向性の提示がございますが、質問のほどよろしくお願ひしたいと思います。

本日、有意義な会議になりますよう、不慣れな会長職でございますけれども、代行してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

#### (4) 委員及び事務局員紹介

##### ○事務局

続きまして、委員の皆様及び事務局の紹介につきましては、お配りいたしました名簿及び席次表をもって紹介とさせていただきます。

なお、(株)ミヤコーバス 執行役員仙台・石巻地区支配人の長尾様につきましては、本日欠席となります。

協議事項1につきましては、交通計画策定支援業務を受注しております(株)オリエンタルコンサルタンツが同席いたします。

本日の会議は、委員の半数以上にご出席いただいておりますので、多賀城市地域公共交通協議会規約第9条第2項の規定に基づき、本会議が成立していることをご報告させていただきます。

#### (5) 議題

##### ○事務局

それでは議事に移ります。

議事の進行につきましては、多賀城市地域公共交通協議会規約第9条第1項の規定に基づき、会長が議長となります。

本日は鈴木副会長、どうぞよろしくお願ひいたします。

##### ○副会長

規約に基づきまして議事の進行をさせていただきます。

本日の会議は協議事項が2件となっておりますので、よろしくお願いします。

それでは、協議事項1の「多賀城市地域公共交通計画策定について(各種調査結果等)」事務局から説明をお願いします。

##### ○事務局

それでは、協議事項1につきまして、事務局から説明させていただきます。

[令和7年度第5回多賀城市地域公共交通協議会案件資料に基づき事務局説明]

##### ○副会長

事務局から説明がございました。

ただいまの説明について、委員の皆様から何かご質問等ございますでしょうか。

##### ○委員

資料1の12ページのバス利用実態調査のサンプル数で、アンケート回収率が低いように思われるのですが、例えば50%ぐらい集まってるなら信用できますが、10~20%くらいだと信用度が低くなるのではないかと思いますが、その点に関しては大丈夫ですか。

##### ○(株)オリエンタルコンサルタンツ

回収率で見ますと、この数字が高い低いっていうのは、数字だけでは言い切れないところはあります。

集計上で見ますと、サンプル票数が多賀城東部線で238票、西部線で106票集まっています。一般的に100票以上あれば、ある程度集計には耐えられる票数ではあるというふうに認識しております。

#### ○事務局

もう一点ですが、このバスの調査をする際に、大体通勤通学ですと、毎日同じ方が利用されていると思うんですね。

この実施が平日休日ともにあって同じ方にアンケートが渡っているということが考えられます。

そうなると、その方が3回もらったのに1回だけ回答になると集計としては回収率が低くなるというところもあって、その確認をバスの短時間の中ではちょっと難しいというところもあります。

今オリエンタルコンサルタンツさんから説明があったように、サンプル数としてはこの程度かなと捉えているところでございます。

#### ○副会長

事務局の見解としては、数字上はこうだけれど、もっと実態的には回答いただいている数があるだろうと。

他にありませんか。では私から。

資料1-3で公共交通事業者さんからのヒアリング調査の結果とありましたが、もう少しご紹介していただきたいと思います。

#### ○事務局

それでは資料1-3につきまして、事務局から説明させていただきます。

[令和7年度第5回多賀城市地域公共交通協議会案件資料に基づき事務局説明]

#### ○副会長

利用者のアンケートは、市民アンケートを取ったりして、いろいろ目にする機会がありますが、交通事業者の方々の本音というか、今の現状だとか、なかなかお聞きする機会がなかったものですから、大変ありがとうございます。

#### ○委員

バス事業者のみならず、タクシー事業者もそうですが、乗務員、運転手さんの人手不足が深刻な問題になっていますし、合わせて、働き方改革という制度ができて、働く時間とか、次の日の勤務の休憩時間がだいぶ厳しくなりましたので、以前のような働き方ですと、従業員が足りません。

なので、今までと同じようなサイクルで事業を推進する場合は、今まで余剰って言ってた人たちがもう余剰じゃなくて必要となりました。

アンケートにもあるように、宮城交通さんの方はもう今後運行維持が困難と結構厳しいこともおっしゃってます。

仙塩交通さんどうなのって言われると、うちも事業の困難まではいきませんが、毎年乗務員

を募集かけて確保はしているんですが、来られる運転手さんの年齢が私52なんですが、私より年上しか来ないです。

若手が来ないということは事業者、そのバス事業というものが魅力がないんじゃないのかなと。

そこを全体的に変えていくしかないと。

あと皆さんご存知だと思いますけど、終身雇用制度というのはもう崩壊しています。勤めて一生その会社にいるのはもう稀なんですね。

うちに来る社員さんで、最初からバス会社に来る人はいなくて、以前バス会社に勤めてた人とか、タクシーやられてた方とか、トラックやられてた方で、たまたま免許持っているから来る人が多いんですけど、今、その免許を取る支援制度として、会社としてもお勤めになる方で、免許を持ってない人の免許取得費用は会社で負担する。

その代わり取ってすぐやめないでねっていう、誓約書みたいなのを書いていただいております。

我々バス・タクシー、この辺の人手不足と高齢化っていうのがかなり深刻になってきてます。

先ほどのアンケートで、日中のロスも多いのかなと思ってましたので、今後はバスの収容人数とかのパッケージを小さくしたりとか、時間帯によって車両が無駄になるかもしれません、朝と晩は大きいものを出す。

日中はコミュニターなどで、もしくはタクシー事業者様もいるので、その時間帯はジャンボを入れるとか、いろいろな取組って考えられるんじゃないのかなと思っています。

あと、アンケートでお答えさせていただいたんですけど、各自治体いろんなコミュニティバスを出してますが、結構連携とってないんですよ。

いろいろな垣根があるんですけど、できれば駅で乗り換えができると広域的な意味でだいぶ無駄が省けたり、うまくすると安く乗れたりとか、これからそういう取り組みっていうのは、私ひとりではできないので、深谷市長とか通して、ほかの首長たちと足並みを揃えて、今後はそういう広域的なインフラの取り組みっていうのは大事なのかなって思っております。

ちょっと取り留めのない話になってしまったんですけど、とりあえず西部線に限っては、まだ人手不足っていうのはなんとかクリアしておりますので、今度はもっと収支率が上がるように乗っていただけるような取り組みを、この会議を通して、市と相談しながら、一生懸命やらせていただければなと思います。

以上でございます。

## ○委員

振興タクシーの小野寺です。

おかげさまで人員がどんどん入ってきて。

だから定着するかしないかが懸念です。

タクシーの場合は売上がさらに直結します。

ですから1台当たり、1人当たりで売り上げをある程度担保してあげないと、せっかく来ていただいた乗務員が、この給料では暮らせないからやめてしまうと。

ですから、社内の需給バランスを考えて、まずマンパワー確保してるんですけども、利用者はピークの需要に合わせた供給を望まれてはいると思います。

それがなかなか難しいところがあって、ピークに合わせた供給をするとタクシーがいっぱい

になる。

そうすると暇な時間帯が増えて、全体の売り上げが薄まってしまう。

そうすると定着しないっていうジレンマがありますので、そこら辺の舵取りはうまくしていかないと、それこそ10～15年前のタクシーが非常に悲惨だった。

これに戻ってはいけないので、おかげさまで乗務員が満足できるレベルまでは上げてはこれました。

これからもそれをキープしながら、需要に見合った供給を少しずつすり合わせてやっていきたいなと思っております。

○副会長

それを聞くと、やっぱりもっとすみわけができるといいかもしれないですね。

○委員

そうですね。

だから先ほど仙塩交通さんがおっしゃったように、バスはバス、タクシーはタクシーではなくて、公共交通の中で今までバスが担っていたけれども、これはバスでは大きすぎるので、小さいタクシーの方でやれませんかというような。

やっぱり全体的にこの皆さんにお考えになるようなことができればいいかなと。

あともう一つは、QRコードっていうのを始めたんですが、お話できない方でも呼べるんですね。

QRコードを読み込んで、名前と電話番号を入れるだけで、そこにタクシーが来るんですよ。

そのQRコードは例えば多賀城駅にも作れますし、多賀城市役所の玄関前、それから今度できた南門の観光案内所にもご希望があればすぐに作れます。

もちろんお話しできる方はお電話かけますけど、お話しできない方、あとは自分がいるところが説明できないような方、ハンディキャップを持っていらっしゃる方も使いやすいようにできています。

○副会長

人に優しい仕組みを取り入れるということですね。

ありがとうございます。

国の機関的に、あるいは県の機関的に何か補足がございますでしょうか。

○委員

事業者様のご意見を頂戴してですが、今、深刻な運転手不足ですとか、高齢化ということと、それからいろいろと経費が上がってきているということがありまして、今後、公共交通を全体として維持していくためには、やはり利用者の方の負担といったところも大事になってくるのかなと思いますので、利用者負担をどう理解していただくかといった、そういうのも必要なのかなというところでございます。

○委員

県もちょうど今年が計画の周期ということで、今、計画策定に向けていろいろと多賀城市さ

んと同じように進めているところです。

気になった点としては、13ページのところで利用者さんの調査であるとか、市民の皆さんのご意見を伺ったものとしては少し抽象的すぎるかなと思っています。

正直、これを市民の方が読んで多賀城市の特徴とか、そういったものが何か出るかというと、⑤だと、下馬駅と接続する地域交通がないというようなお話があるんですが、一方で例えば②ですと、JRとかバス停から離れた一部交通不便が存在っていうのは、多分それはどこの市町村もそうであって、多賀城市と名前隠したらどこの町かわからないかなと。

こう読めてしまっていたので、もう少し調査の具体的な数字だったり、エリア毎とかあるといいかと思います。

#### ○副会長

今後プラスシュアップして、強化していただければと思います。

#### ○事務局

あくまでまだ調査分析途中というお話をさせていただいた中で、地域別に見てみたりとか、逆に年齢別に、すごい少数かもしれないけれども、地域的には貴重な分析結果だったりするものもあったりするので、それがお話しいただいた多賀城市的地域特性だったりする可能性もありますから、もう少し細部にわたって分析を進めていきたいと思います。

#### ○委員

先ほどありましたが、それぞれの自治体でコミュニティバスを運行している状況です。

事務局さんからもご説明がありましたが、今の二市三町の担当者レベルで、どういったバスの利用状況なのかというような意見交換を実施しているところでございます。

それがどんどん広がって、広域的なバスの運行とかに広がっていけばなということで、我々も考えております。

事業者様のアンケート結果を見て、近隣自治体との連携が不可欠だというようなことを知れたかなと思います。

副会長さんから、広域での観光の課題というのを、今、多賀城市さんの県への要望に向けて、いろいろ力を入れて取り組んでいただいていると思います。

そのことと合わせて、交通っていうのは、やっぱり切り離せないというところでございますので、そういったことも連携していかなければなと思います。

#### ○委員

うちの町の、ぐるりんこという町民バスを進めているんですが、色々な声がありまして、ある地区の方が隣の地区にスムーズに行けないと。

どこまでそれを拾うかというのが一つの課題でもありますので、いろいろタクシー業者さんとも連携しながら進めてもらっています。

今回、多賀城市さんのこういった協議会を参考にしながら、いずれうちの町も交通計画策定を検討してますので、参考にさせていただければと思います。

○委員

仙台市の方では特段コミュニティバスというのは走らせておりません。

仙台市交通局が主な事業者ということになりますけれども、多賀城市さんと近接をする路線ということで、市営バスということで資料の方にもございますけれども、結節とかダイヤとかそういう部分はもちろん、交通局の方でも連携、協議をさせていただくことになろうかと思いますので調整できればと思います。

○副会長

最後に、住民の皆さんで何かご意見ございましたらお願ひします。

○委員

こちらの計画は8年度から12年度までということですよね。

アンケートや乗客の方々からのご意見などを見て一つ気になるのは、高齢者がどんどん増えてきて、通院とかお医者さんにかかっている人たちが非常に多いと言っているところです。

そうすると免許の返納も含めて、今から5年後の社会情勢を踏まえて計画をどう作っていくかというのが非常に重要ではないかなと思っています。

これからも高齢化はどんどん進みますし、そういう対策は公共交通としてどうカバーしていくのかという視点が極めて重要なんじゃないかなと思っております。

その辺を今度の計画の中に織り込んでいくんでしょうけれども、ポイントを置いて計画を作っていく必要があるんじゃないかなと考えてました。

○事務局

多賀城市ももれなく高齢化が進んでいくという状況は注目しなければなりません。

そうなると自ら移動できた方が移動できなくなってくる状況かなという心配があります。

この部分をどう公共交通が補うかというところだと思うんですけど、おそらく100%補えないだろうなと。

逆に今も民間事業としても展開されているんですが、家まで買い物の商品を届けてくれるという仕組みがたりとかもあるので、それを見据えながら公共交通としてはどういう移動手段、バス、それからタクシーと連携できて、さらに雇用の創出という形にもなるかもしれません。

地域の方々の移動支援について仕組みだったり整理できればなというふうに思っています。

○委員

冒頭で仙塩交通のお話がありましたが、アンケートの中で時間帯で多いところと低いところがあると思いますが、最終的に収支が合わなくなつて撤退というようなことなつてしまつのが一番怖いことありますから、せっかくこういうアンケートの結果が出たということですから、タクシーとの時間帯も早急に検討する必要あるのかなと。

これ以上大きく増えるとか、多分ないと思いますので。

それと観光にも少し力入れているということで、今回この中ではあまり具体的にはないですが、タクシーさんの方でQRコード、これはいいなと。

可能であればホテルとか旅館とか、多賀城だけでなく、県の観光の中の多賀城のスポットの

中にQRコードを置いてもらうとか、あるいは松島でも何でもいいですけども、そういうのを置いてもらうようにやっていけばよろしいのかなと。

私も城南に住んでて南門があって平日でも結構な人数が来てるんですね。

自家用車できたり、バス停があるんですけれども遠方からであればそういうのも必要あるし、観光に力を入れるのであれば、東京駅に置くというようなこともやれればなと思います。

#### ○副会長

今回これは議題としては協議事項となってございますので、こうやって皆様から色々なご意見をいただきながら、これを一旦頂戴した上で事務局の方で全部できるかどうかはあるかと思うんですけども、最終的な計画づくりに盛り込んでいただければと思います。

協議事項1についてはこれでよろしいでしょうか。

[質疑等なし]

続きまして、協議事項2、多賀城東部線・西部線における取組みの概要について、事務局からご説明お願ひいたします。

#### ○事務局

それでは、協議事項2につきまして、事務局から説明させていただきます。

[令和7年度第5回多賀城市地域公共交通協議会案件資料に基づき事務局説明]

#### ○副会長

ありがとうございました。

今まで社会実験で65歳以上を無料としていたものが今現在は延長して運用していると。それを来年の4月からは新たな形での運用ということで、今明らかになりました。

一番関わりある鷗原さん、何かございますか。

#### ○委員

スマートフォンを利用して画像で無料で乗れたので、事業者からすると運転手さんの負担軽減にも寄与はしてたんですけど、どうしてもスマホを買ってお乗りになるのに年齢的に無理がある人たちもいるので、従来通りの紙での発行は致し方ないのかなと思います。

あとは県のミニアプリでバスの方にICTを装着しますので、その部分では運転手さんの負担軽減にも寄与しますし、読み込みもスムーズだと思います。

紙で配る人はどの程度いるのかわからないんですけど、そんなに多くはないのかなと思いますので。

やってみないとわからないところもございますし、今まで社会実験として無料でやってたものなので、急にお金取るとなると抵抗もあるかと思います。

ただし、更新手数料100円かかってしまうので、その辺は役所の方でも事務手数料がかかってくるかと思います。

しょうがないのかなっていうところもあるので、私どももそれで運営してみて、何か不都合とか逆にメリットがあれば、この協議会を通じて皆様の方にご報告はさせていただきます。

私もやってみないとわからない部分がありますので、市民の皆様の利便性が上がるのであれ

ば、いい取り組みではないのかなと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○副会長

特に宮城県のミニアプリは色々ないい機能を持っているんですけども、もっと活用しないともったいない話なんで、今回は多賀城市ではバスで利用促進を図ろうと思っています。

○委員

実際紙じゃないとダメだっていう声が結構あったっていうことなんですか。

○事務局

実際に私、申請を受付しておりますが、なかなかスマートフォンを持っていても操作はできないので、お願いしますというような形で来庁いただいたり、やっぱりスマートフォンを買う余裕がないっていうようなご意見もあったり、その経済的な負担、そういった部分も踏まえたりすると、やはり外出の機会は減らして欲しくないっていうような考えでございましたので、今回、紙の乗車証を導入するということになりました。

○副市長

実際利用される市民の方からは何かありますか。

○委員

今までのスマホを使っての乗車証は、だいたい1000名から2000名くらいなんでしょうか。紙の人はどのくらいの人数を見込んでいるんですか。

○事務局

おそらく社会実験利用されている方の1.5倍は間違いないと思います。

今回のアンケート調査を細部にわたって調査してですが、どの年齢層の人たちがどれぐらい乗っているというのが分かるので、それに社会実験の利用者数はこちらの方で把握しているので、それを差し引くと、残りの部分は紙になると思います。

そこはもう少し調査を再分析しないとダメだというところで、おそらく1.5倍くらいかなと。

○委員

その分費用負担が増えますよね。

○事務局

これから予算の整理で検証していきます。本来は紙ベースの乗車証も運転手さんの負担軽減を考えると、その乗車証にQRコードが付いていてピッタリできればなと思ったんですが、システムを作ろうとすると、もっとお金かかってしまうということでした。今回まず第一歩目として、このような仕組みにしました。

○委員

今の件で、流れとしては分かるんですけれども、申請手数料は今のお答えで、だいたい1000円かかる。

そしてこれを利用するというのはもう少し高齢者でデジタルができないという方でして、そういうことで考えれば手数料は必要ないのかなと思いますし、敬老証が1000円かっていうのはどうなんだと、私個人として若干抵抗を感じます。

○事務局

まず、1年間1000円ということでご理解いただきたいと思います。

生の声で申し訳ないですが、今まで社会実験の手続きを窓口で対応すると、長い方だと概ね一時間ぐらいかかります。

簡単な方だと30分ぐらい。

私たち7時間45分勤務する中で、その時間の中で整理をするとなると、なかなかその事務負担は簡単なものではないという状況になっておりますから、ちょっとご理解いただくためにも、1年間で1000円っていうような整理をさせていただいたところです。

西部線ですと、片道200円で往復で400円。

約2回ちょっと乗れば1000円はすぐになります。

東部線ですと1往復で1000円になります。

その辺のご理解をいただきたいなというところでございます。

○副会長

他にご意見等ございましたでしょうか。

[質疑等なし]

以上で、議題としておりました、協議事項2件の議事を終了します。

円滑な議事進行とご意見ありがとうございました。

会議の進行を事務局へ戻します。

○事務局

次に、次第の5その他でございますが、今後のスケジュールでございます。

次回第6回の法定協議会につきましては12月23日(火)に開催を予定しており、本日の協議事項2に係る運賃料金部会での協議も予定しております。

計画につきましては、次回協議会後、令和8年1月中旬よりパブリックコメントを実施し、令和8年3月ごろ開催予定の第7回協議会において最終決定する予定でございますので皆様よろしくお願いします。

最後に、委員の皆様から、何かございますでしょうか。

[質疑等なし]

本日は、長時間にわたり誠にありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度第5回多賀城市地域公共交通協議会を閉会させていただきます。

本日はありがとうございました。